

# 網走市

あばしりし

面積：470,100km<sup>2</sup>  
 人口：39,623人（平成21年4月30日現在）  
 世帯数：18,549世帯（平成21年4月30日現在）  
 町の木：カツラ  
 町の花：エゾムラサキツツジ  
 町名の由来：アイヌ語の「ア・パ・シリ」（我らが見つけた土地）「アパ・シリ」（入り口の地）「チパ・シリ」（弊場のある島）など諸説ある。  
 H P：http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/  
 E-Mail：ABA-SITYOU@city.abashiri.hokkaido.jp



## 道の駅「流水街道網走」



(社)網走市観光協会  
専務理事

菅原 久さん



(社)網走市観光協会  
企画管理課長

浜名 みゆきさん

### 流水観光の拠点であり、 ご当地グルメも食べられる

流水砕氷船「おーら」の乗船場にもなっている「流水街道網走」は、2009年（平成21年）1月16日にオープンした、北海道で105番目の道の駅です。駅名の由来は司馬遼太郎の著書「街道をゆく」に、網走のことが出てくることもあり、公募の際に市民が「街道」という言葉にこだわり付けました。

網走は観光資源が大変豊富で、四季を通じて様々な魅力を発信していますが、中でも冬は流水が最大

のウリ。オホーツクの海が流水に覆われ、自然が生み出すダイナミックな世界にたくさんの観光客が魅了されています。この臨場感を道の駅内でも楽しんでもらおうと、建物1階の海側には大きなガラス面が設けられ、晴れた日には流水と、その向こうに知床半島を望むこともできます。ガラス面側には足岩盤浴も設置されており、リラックス気分を味わいながら、ため息ものの美しい景観を眺めることができます。

ところで映画通でなくとも、高倉健さん主演の「網走番外地」というタイトル名を耳にしたこともあるかもしれません。実は網走は映画に縁のある街で「幸福の黄色いハンカチ」や「子ぎつねヘレン」など、数多くの映画のロケ地にもなっています。そうした背景もあり食事を提供する2階のフードコート「キネマ館」では、劇場で実際に使われていた古い映写機を置くなど映画にちなんだ空間づくりをしています。海に隣接するロケーションにあることから、カウンター席はオホーツク海を間近に見ながら食事ができるようレイアウト。ここでは、カラフトマスの唐揚げをのせたご当地グルメ「網走ザンギ丼」が食べられ好評を博しています。また流水の海をイメー



道の駅「流水街道網走」外観



キネマ館



オホーツク流氷カレー

ジした「オホーツク流氷カレー」は、ルーが海のように青いので必ずといっていいほど驚きの声があるそうです。流氷を模し、その青いルーとホワイトソースでコーティングした白いチキンとの組み合わせがなかなかリアルです。ほかにキンキの釜飯や麺類など各種メニューがあります。

## パソコンや観光案内所で情報提供

テイクアウトコーナーにも地元網走の特産品を使った美味しいものがズラリと揃い、「網走ザンギ饅頭」「オホーツクサーモンちゃんちゃん焼き」などは、ドライブ途中でも手軽に食べられます。

また道の駅となると、必ずチェックしておきたい項目にトイレがありますが、利用者のアンケートによると「清潔で良かった」と、高い評価を得ています。

訪れた人が即座に情報を入手できるようパソコンによる情報提供も行っていますが、網走市観光協会が館内に入っていることから、対面による受け答えにも力を入れており、案内所では担当者が丁寧に対応。同協会の浜名みゆき企画管理課長は「イベントや目的地までのルート、グルメはもちろん、地元の人だけが知っているような隠れスポットなど、レアな情報も、こっそりお教えできるかもしれませんよ(笑)。網走へいらっしゃった方が、この街を十二分に楽しんでいただけるよう、常に最新の情報を交えご案内させていただいております」と話します。

## ブルーやルビー色の地ビールが人気

ところで旅に出ると、その土地ならではの土産が気になるもの。そこで特産品コーナーではスイーツなどの食べ物、地元限定のキャラクターグッズ、工芸品などを幅広く扱っていますが、人気商品の一

つに個性的なラインナップの網走ビールがあります。オホーツク海の流氷を仕込み水に使用し、天然色素スピルリナで鮮やかなブルーを再現した「流氷DRAFT(ドラフト)」。オホーツクの夏を彩るハマナスのルビー色そのままの「はまなすDRAFT」。世界遺産知床の雄大な自然のイメージが伝わってくる「知床DRAFT」など。東京農業大学のオホーツクキャンパスでは、地ビールの研究・開発にも取り組み、地元企業と手を結び話題性に富んだ地ビール造りをサポートしています。

網走は、毎年1～2月にかけて、網走湖が結氷するとワカサギ釣りができ、道具がなくても貸してもらえるので、手ぶらで楽しむことができます。花のシーズンなら、網走国定公園小清水原生花園や、市民の手によって整備されるフラワーガーデン「はな・てんと」がおすすめ。アウトドア人気も相変わらず根強く、青空の下ワイルドに天都山のオートキャンプ場「てんとらんど」で休日をエンジョイするもよし。季節を問わない歴史や科学の知識を深める旅なら、本物の流氷が展示され、クリオネもいる「オホーツク流氷館」や、明治時代から実際に使用されてきた建物だけに趣がある野外博物館「博物館網走監獄」、そして日本で唯一、北方民族の文化を紹介する「北方民族博物館」を訪ねてみるといいでしょう。とにかく過ごし方は自由自在。

時期によっては道の駅を会場にしたイベントも企画され、「オロチョンの火祭り」や「夕市まつり」が開催されます。

前出の網走市観光協会の菅原久専務理事は「網走は何度訪れても新たな発見があり、リピートしたくなる観光地だと思います。わたしも長年住んでいますが本当に暮らしやすい街で、幾つになっても、しょっちゅう感動を覚えています。網走の素晴らしさに出合う準備は、まず“流氷街道網走”で、と申し上げたいですね」と、笑顔でPRしていました。



豊富な種類の網走地ビール